

**明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第2回 農産物等研究専門部会
議事要旨**

- 1 開催日時：平成29年2月27日（月）14：00～15：00
- 2 開催場所：明治大学黒川農場 第1階会議室
- 3 出席者：[座長] 小清水客員教授
[部会員] 安藤委員、梅澤（進）委員、梅沢（正廣）委員、志村委員、木下委員、
山中委員、岩淵委員
[事務局] 川崎市経済労働局都市農業振興センター 小川主任、古山係長
コンサルタント（（株）UR リンケージ 牧野、會田）

4 議事：

(1) 平成28年度の取り組みに関する中間報告

≪主な意見≫

1) アスパラガスの新たな栽培方法「採りっきり栽培」の実施

- ① 苗の作り方、供給方法を含めて農業技術支援センターでも支援していく。全国的にも注目されている栽培方法なので、ぜひ、黒川で産地化できるとよい。
- ② 勉強会が終わった後に、マルチング材等、色々と質問が出てきた。先生と質問ができる体制が整うとよい。
- ③ どんな薬を使ったかなどを記録できるとよい。（事務局）
- ④ 機材の貸し出し方法や倉庫なども勉強会の際に明確になるとよい。

2) 殺虫剤農薬抵抗性に関する講習会

- ① アザミウマの講習会はできなかったが、アスパラガスの講習会でキャベツの品種比較試験の結果を報告した。今後も同時開催して講習会ができるとよい。黒川でよく栽培されている農産物をテーマに勉強会をやれるとよい。（事務局）
- ② 同時開催の方が大勢の人に参加して貰えるとよい。殺虫剤についても例えば農薬会社の人に来て貰うとか、幅広い内容にすれば単独開催でもやれるとよい。そういった勉強会は支部でも考えていた。

3) 農産加工品に関する検討

- ① 農産加工品を黒川の特産にすることを目的とするのではなく、その可能性を話し合う機会をつくりたい。（事務局）
- ② 加工品をつくるとなると、出口戦略が必要。明大の学生が関わるとよい。
- ③ 地域活性化検討専門部会では、農学部のゼミで農産物を使ったスイーツなどを開発している。
- ④ 農学部ゼミと農家との関わりを持たせた形でやれるとよい。
- ⑤ 収穫祭で売るものを作るために、地元で協力・連携できることを探れるとよい。

地域活性化検討専門部会の取り組みと連携させながら可能性を検討する。(事務局)

4) 黒川野菜・果物等のPR

- ①長雨で野菜が育たず品を集めるのが大変だったが、今回は、当日の天候もよくて、人の出も多かったことで、よく売れた。
- ②農場の野菜と地元野菜を目的に来場する人も多かった。
- ③農場の野菜と地元野菜の売り場が分かるような工夫が必要である。世間の野菜の価格が高騰していたので、沢山買っている人が見られた。収穫体験や農場野菜販売で出す野菜と、地元で出すものを区別できると良いのではないか。
- ④キウイやカキなどの果樹はすぐ売れてしまったが、収穫祭だけでなく他にも取引をしているところがあるので、必ず出荷できるか分からない。
- ⑤今回も好評だったので、ぜひ来年度も継続できると良い。

(2) 平成 29 年度の実施計画(案)について

- ①来年度の本専門部会のテーマはアスパラガスが中心となる。勉強会については、アスパラガスの講習会と同時開催で実施したい。(事務局)
- ②農薬抵抗性については一度講習会を行い、無駄な農薬をまかなくてもよいようにできるとよいと考えている。(事務局)
- ③今年度はキャベツの勉強会を行ったが、今後、ブロッコリーなど他の野菜の勉強会を開催できるとよい。(事務局)
- ④勉強会等の進め方については、また来年度の冒頭で提案させてもらうが、基本的には、本資料の内容に沿って進めることとする。(事務局)

※概ね了承。

(3) 今後の予定

- ①来年度、再度地元のみなさんに集ってもらい、内容を提案していく。(事務局)

以上